

二日目は、田野畑村から宮古市までの中部エリア。羅賀漁港よりサツパ船に乗り込み、田野畑村北山崎へ。



サツパ船から見る北山崎の絶景は三陸ジオパークの看板商品。船頭さんから船上でジオ解説も加わり、陸では味わえない北山崎の魅力を満喫していただきました。

船を降りた後は、同じく田野畑村のハイペ海岸でガイドツアーに参加。海岸にある津波石を見学。こんな大きな岩が津波で十五mも動いたことに審査員も驚きの表情でした。



この巨石が 8.11 の津波で大きく動きました!

岩泉町では、小本地区の被災地ツアーに参加し、その後は恐竜化石(モシリユウ)が日本で最初に発見された場所へ。地元ガイドが白



モシリユウ発見地

亜紀の世界を案内してくださいます。モシ竜化石のレプリカに審査員も少年に戻っていました。二日目も大詰め、宮古市に向かいます。某アイドルグループのように「四八あるジオサイトのセンターはここです」との宣言から始まった浄土ヶ浜でのガイドツアー



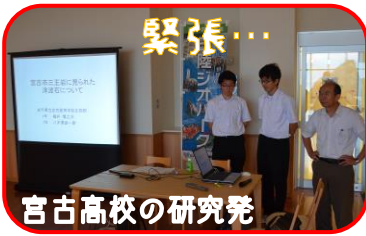
現地審査の様子は新聞、TVなどのマスコミに大きく取り上げられました。(写真は青森県種差海岸)

では、美しい景観を始め、歴史や文化、生態する動植物と、幅広く解説がなされました。



浄土ヶ浜

続いて、宮古高校生物部の生徒による三王岩で見つかった津波石の研究発表も聞いていただきました。未来のジオパークの担い手も育成していきま



宮古高校の研究発表

三日目(八月二十一日)

いよいよ最終日。南部エリアの大船渡まで一気に南下しました。道中、各地で震災の爪痕、復興の様子も見ていただきました。大船渡では、市立博物館佐藤館長の解説のもと、充実した地質展示を見学し、続いて碁石海岸乱曝谷のガイドツアーに。

白亜紀にできた地層の他に東日本大震災で落下した巨石について解説を受けました。

昼食では大船渡名物さんまラ



碁石海岸

現地審査最後の視察は、気仙沼市唐桑半島。ビジターセンターでは、津波体験館と展示を使った防災教育について、御崎八隻曳では、雄大な景色と唐桑の人々の暮らしぶりをガイドに案内していただきました。複雑に折れ曲がった地層を漫画や西洋画に見立てた解説が審査員に好評でした。



懇談風景

ーメンを食べながら、齋藤沿岸広域振興局長を始め関係者と意見交換も活発に行われました。



御崎八隻曳

曲がったこの地層、何に見えます?

～編集後記～

号外は現地審査の報告をさせていただきました。今回審査員を案内したのは三陸ジオパークのほんの一部。それでも丸3日間掛かりました。JR九州のななつ星のような豪華列車でゆっくり三陸を観光するような企画ができればいいのと勝手に妄想しています。